

# 「羽包み(はくくみ)」

第五号 平成22年7月1日発行

自立援助ホーム「湘南つばさの家」

〒253-0022 神奈川県茅ヶ崎市松浪 1-12-17 TEL・FAX: 0467-58-6260  
E-MAIL: shonan-tsubasa@marble.ocn.ne.jp URL: <http://www.shonan-tsubasa.com>

ご送金は ゆうちょ銀行振替口座 00200-5-81277 へお願いします

## 「生きること」を支える

### ホーム長 前川 礼彦

ホームでの暮らしにて、自活するための準備を整え社会に巣立っていった少年たちは、まさにそこから新たな人生の道のりとなります。生まれて初めてのアパート暮らしへの不安感、一人きりで暮らす孤独感、十代から親元を頼れず、失敗したら後がないという切迫感。それは暗闇の断崖絶壁を歩く如くかもしれません。

あわせて家庭で共に暮らせなかった体験が自身の存在否定に繋がり、対人関係が上手く立ちふるまえないと苦しむこともあります。職場の人間関係に馴染めずに仕事を辞めてしまえば家賃も払えず、生活の場を失い、社会から孤立してしまい兼ねない状況を抱えながら生きているのです。

自身への否定感の根底に「生きていても仕方ない」という無力感を抱え、困難を切り開こうとする意欲さえ奪っていきます。その昔、挫折を繰り返し、社会から孤立し、残念ながら自らの命を落としてしまった青年との出会いもありました。しかし同時に何とか今の困難を乗り越えようと、精一杯生きている彼らの姿もあり、ホームでは逆に私が励まされながら暮らしているとも感じます。

自立をしていくためには、就労が安定し、生活習慣が整い、対人関係を円滑にして、夢に向かって意欲的に歩いていくことなど、多くのことが社会から望まれるかもしれません。

しかし彼らのせいではない家庭の事情で多くのハンデを抱え、若くして多くの現実を突きつけられ生きなければならない少年たちに必要なのは、もっと根源的な事なのです。それはとにかく「生きていって欲しい」という存在への願いなのです。

無事に生きていることは当たり前ではなく、様々な困難を抱えながらも、それでも精一杯生き続けている彼らがいる。まずはそんな彼らを私は応援していきたいと思うのです。それが私のこの仕事に対する原点なのかもしれません。

彼らの葛藤に付き合いながら、とりあえず生きてさえいれば可能性が広がる。様々な人との出会いや体験からいつしか自分が変わるかもしれない、世界が広がるかもしれない。時には静かに見守り、ときには側で伴走しながら、同じ時代を生きている人間として、「生きること」を支えあいながら歩んで行きたいと思うのです。

今後とも湘南つばさの家を宜しくお願い申し上げます。